



「日本語ボランティアの会」に参加して

千田 章

私が日本語ボランティアに携わるようになったきっかけは、ある台湾人親子との出会いでした。私は南アルプス市内に住んでおりますが、その親子も市内しかも近隣に住んでいました。彼らの父親とは私の仕事上の知り合いでした。父親は飲食店を経営していて、私は時々食事に行きました。ある時、子供たちのことが話題になり、なかでも長男が小学校入学を控えていることを知り、父親から長男の勉強をみてもらえないか、と頼まれました。それがボランティアを始めたきっかけです。1年間は時々食事に行ったおりに学校の宿題を主に教えていましたが、2年生になる時に、今度1年生になる長女も、ということになり、私は、一度に2人の面倒をみるところはないか、と探していたところ、南アルプス市国際交流協会の日本語サロンを知り、ねがったりかなったりと、毎週のように子供たちを送迎しました。日本語サロンのボランティアスタッフの指導を受け、長男に加え長女も日本語が少しずつ上達して行きました。日本語サロンには多国籍の外国人の方々が日本語や日本の文化などを学びにきており、私が連れていった兄弟は日本語の理解ばかりでなく、ほかの国々の友達と交流が図れたと思います。雰囲気慣れてくると、長男は他の友達と遊んでいる時間の方が多かったように思います。

彼らの日本語への理解や学習意欲の高まりをみていくうちに、私自身ももうすこし活動の範囲を頑張ってひろげてみようとして YNV の門をノックしてみました。入会当初は欲をかって数人の方の支援をさせていただきましたが、やはり息切れ、現在は、幽霊会員状態です。なかなか、会(現在は薩川さん)からの照会に対して応答できていません。ほんとに申し訳ないです。

実は、私自身の仕事から外国人と接することが多々ありまして、現在は、ある企業に頼まれ、技能実習生数名への日本語指導をボランティアとしておこなっております。この実習生には笑い話があります。日本にきて間もない頃、現場で先輩から「〇〇くん、倉庫から”ねこ”持ってきて」との指示に対して、「倉庫にはネコいませんでした」と応答。現場には笑い声が響いていた、とのことでした。現場のチーフリーダーが「専門語や甲州弁は控えるように」と、現場での標準語の徹底を図ったそうです。

現場でのエピソードを聞いたうえで、私も甲州弁をこらえつつ取り組むようにしました。そして、月数回のゆるゆるのスパルタ学習?を経ての、先般の日本語検定の受験結果がどんな結果か・・・本人はバッチリと言っていますが。

この実習生へ時間を取られるため、なかなか、会からの呼びかけに対して手をあげられなくて申し訳ない思いです。手を挙げられる日(ただし、仕事のバンザイではなく)が早くくればいいなあと思っています。こんな思いをしながらボランティアに取り組んでいる昨今です。

